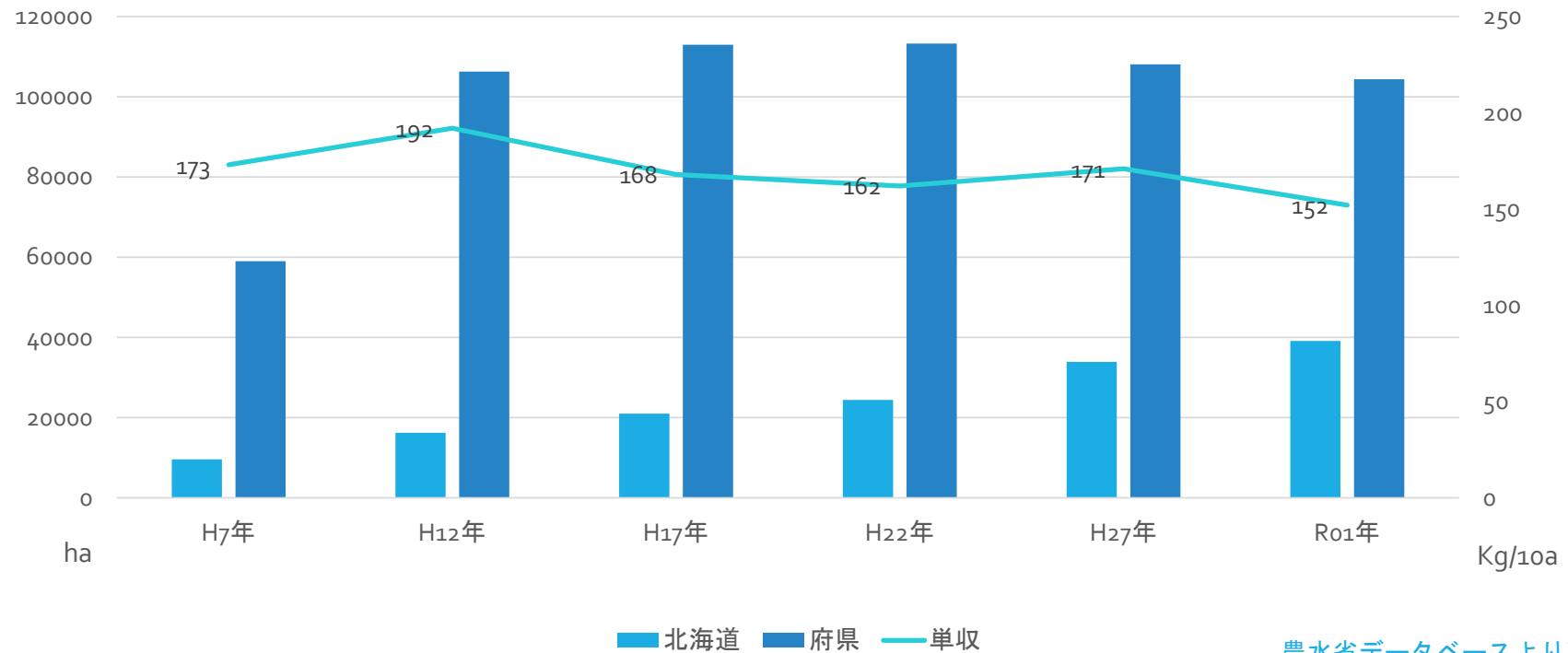


万能散布バーを用いた大豆への うね間・株間除草効果について

北海道糖業株式会社

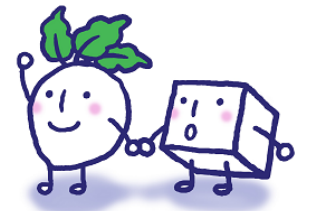
大豆作付面積と単収の推移



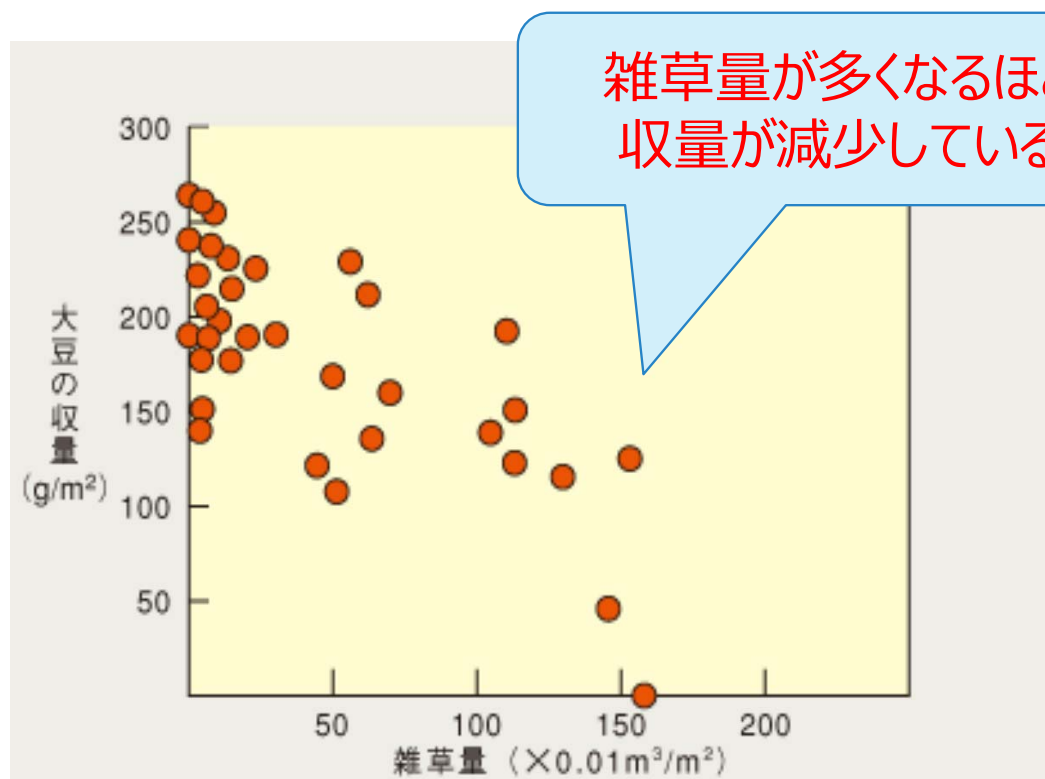
農水省データベースより引用

水田転作大豆の低収要因

- 排水不良による出芽の不安定
- 土壌有機物や無機成分不足による生育不良
- 収穫時のロスや汚粒の問題
- **雑草**や病害虫の問題



雑草と大豆収量の関係

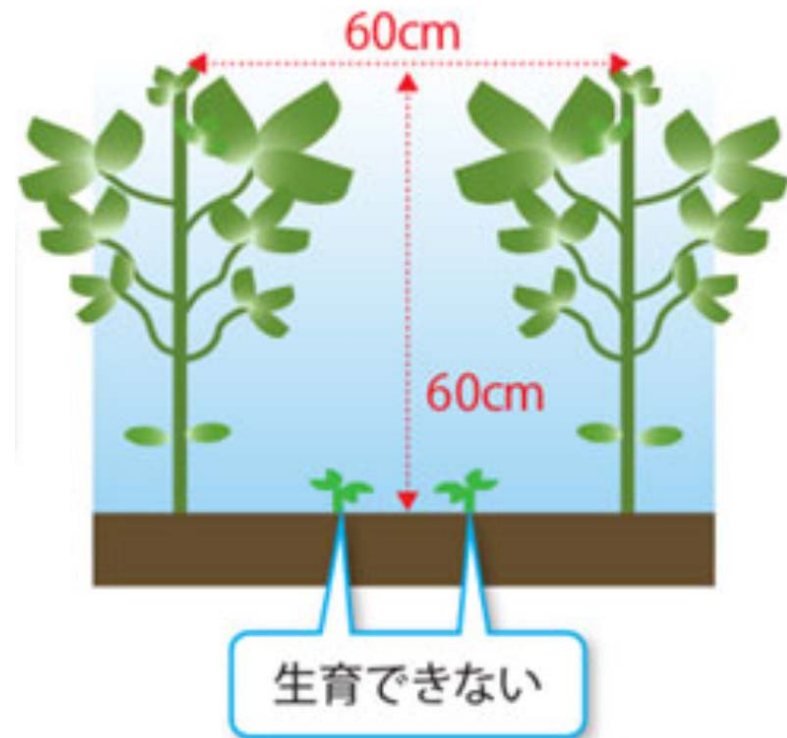


- 光競合による分枝抑制と着蕾数の減少
- 子実の肥大阻害
- 収穫時の汚損粒の発生
- 雑草種子の翌年以降の発生源

※'03年~06年東北地区にて実施

雑草被害を抑えるには

- 大豆の生育が進み、うね間が完全に大豆で覆われてしまえば、多くの雑草は正常に生育できないことがわかっている。
- 大豆の被陰効果が得られる時期の目安として、大豆の草高とうね間の幅が同じになるころ。
- 大豆の茎葉が繁茂するまでの間、
土壌処理剤→茎葉処理剤→中耕培土→
うね間・株間処理の作業を徹底する。
- 作業手順の中に、うね間散布を組み入れ雑草
摘出作業の軽減を図る。



条間と同じ高さになると雑草の生育は停滞

畦間・株間に安定した散布を実現



- ソリ型のバーを接地させ、基部がゴムで固定されているため上下左右が独立した形で動き、圃場の凹凸があっても柔軟に対応しドリフトを抑えることができる。
- 散布位置の角度や高さを自在に変更でき株元・畦間に散布できる。
- ノズルは、①飛散防止カバー付エポックノズルにより除草剤の舞上り飛散を抑える、②蛇腹状ホースとアワノズルにより正確に少量でも効果が発揮できる。

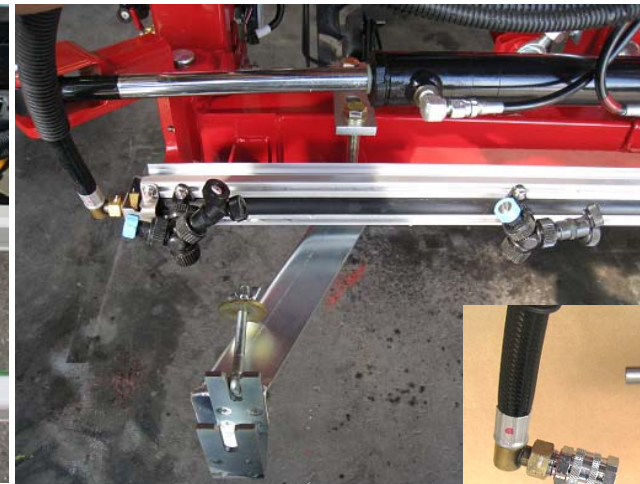
取付金具 設定一例



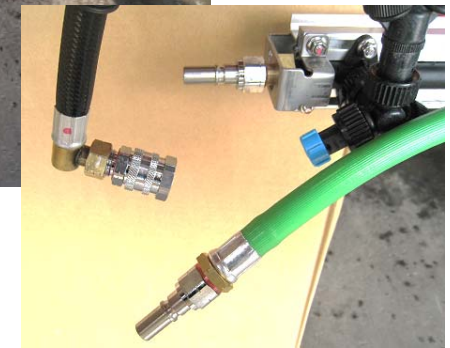
共立



斗セキ



丸山



薬液切り替え部

- 専用金具を取付けておくことにより、工具なしで万能散布バーセットを着脱できる
- 専用金具は取付けたまま、薬液切り替えにより、通常防除ができる

散布確認

2017年北海道 バスタ液剤をうね間・株間に散布



8月4日散布



8月9日確認
(5日後)



8月25日確認
(21日後)



9月28日確認
(55日後)

